



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

「定額給付金」には 市長も反対を表明

第4回定例
12月議会 鈴木やす子議員の一般質問から



12月9日、市議会一般質問がおこなわれました。今号では鈴木やす子市議の質問の要旨を報告します。

● 定額給付金と消費税

【鈴木やす子議員】 10月30日に麻生首相が発表した追加経済対策では「定額給付金」が目玉となっている。同時に、3年後に消費税率を引き上げる方向も示された。市長の見解をうかがう。

【市長】「給付金」は、市民としては反対である。首長としては、かつての「ふるさと創生資金」のように自治体に交付されるのであればありがたい。消費税については、地方交付税や福祉税のように目的をはっきりさせることで理解も得られるのではないか。

【鈴木議員】 選挙を前にして一時金をばらまき、消費税増税を明言して負担増を永久化しようというのは許

されない。「給付金」は識者からも世論でも批判が強い。実務にあたる自治体でも混乱が心配される。消費税は、お年寄りから赤ちゃんまで、医療にも出産にも、福祉にも教育にも係る。低所得者にも負担が大きい税体制である。そういうものに頼らない政治運営こそ必要だ。

● 有機農業の推進を

【鈴木議員】 まちづくりの今後の基本となる第4次総合計画についてうかがう。

【市長公室長】 7月29日に審議会を立ち上げ、市の現状、特性、市民意識、第3次総合計画の評価などについて資料のとりまとめと分析をしている。

【鈴木議員】 「安全・安心」をキーワードとして、とくに「食の安全」に注目したい。農・漁業の地産地消、そして有機農業によって健康増進につなげる。肥料にはレンゲや生ゴミなどを活

用することで、循環型のまちづくりの踏み出せるし、景観づくりにもつながる。住む人も訪れる人も元気になるるまちを提案する。

● 高齢者の保険証

【鈴木議員】 後期高齢者医療制度によって、高齢者でも保険証が取り上げられることになった。これまで明らかになっていないデータなどから推計すると、滞納者は全国で10数万人にのぼる可能性があり、来年の6月には多数の高齢者が無保険となりかねない。そこで当市での現状をうかがう。後期高齢者医療制度の加入者数と、年金から天引きとならない高齢者(年間18万円以下の普通徴収者)の数、現在の収納・滞納の実態、また県連合の方針はどうか。

【市民福祉部長】 11月末日現在、約6400人で、そのうち普通徴収者は約1000人。収納率は89%である。県は基準を検討中だが、ひとまず短期保険証で対応し、分納をすすめる、支払い困難な場合は個別に対応していきたい。

【鈴木議員】 高齢者からの保険証の取り上げは命に直結するばあいもある。そも

私の生まれ故郷の北海道旭川市では、すでに今年も雪が降っています。いままでは、81歳になる母が一人で暮らしています。趣味のサークルや、近くの病院でお世話をする側としてのボランティアなど元気に過ごしています。

その母が、この冬、凍った道で転んでケガをしてしまいました。背中が痛いところとれないので調べたところ、圧迫骨折だということ、即入院となりました。一ヶ月はかかるだろうとのこと。たまたま入院先は、これまでボランティア活動で通ってきた総合病院です。いつも顔をあわせていた看護師さんやお医者さんがいらつしやるので、不安感も小さいはずだと勝手に想像するしかありません。

母のケガ入院

北茨城市議会議員
鈴木やす子

私の母のばあいも、何かあったとき手伝ってくれるのは、サークル活動などの仲間です。今回も、日頃から親しくさせていただいてる若い友人が何かと気づかせてくれたと聞きました。誰もが歳をとります。誰でもケガをしたり病気になることはあります。でも、必ずしも家族がいるとは限りません。遠い地で暮らす母が幸いにもたくさんの人に支えられているように、私自身も、近所でお手伝いできることがあれば少しでも力をつけたいと思います。そうやってお互い様に助け合える社会であってほしいと願っています。

私は、2男2女の末っ子ですが、上の兄弟たちも全員が関東地方に暮らし働いています。一人で病院に入っている母を思うと切なくなりません。ようやくこの週末、埼玉県に住む次兄がトンボ返りだけ行つてくると連絡が入ったところです。

「遠くの親戚より近くの他人」。し、セーフティネットをしつかりさせることこそ政治の責任のほうです。そのために「いまは私のふるさとともなったこの街でがんばるから、母さんもがんばってね」と、滅多に里帰りもままならない末娘は北の空を見上げています。

そも国が医療や福祉、保険制度への支出を減らしてきたことが根本原因であり、これを増額するよう、また後期高齢者医療制度の中止を求めて運動をすすめたい。

悲劇的な事例がおきないよう市行政のいいないな対応を強く求める。
※このほか、子どもたちの「居場所」づくりについても質問。